

科目名	企業等実習		科目コード	B53033	単位数 時間	2単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
区分	自由選択科目	選択	担当者名	入江 英弥、坂井 任、 スティーブン・マックウィニー			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          大学生のキャリア教育の一環として、働くことの意味や、社会人となるための基礎知識を講義と実習で学ぶ。講義を聴講した上で各自の希望する企業において就業体験をする。実習前に事前レポートを作成する。実習後、実習日誌と事後レポートを作成し、報告会で発表する。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-1に関連している。</p>									
到達目標	就業体験を通して企業や社会の動きを実感し、職業観を確立する。今後の進路選択、就職活動の判断材料とする。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	オリエンテーション	インターンシップまでの流れの確認と事前事後の発表		第16回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第2回	就職活動のアウトライン	就職活動をするための準備見取り図		第17回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第3回	自分を見つめなおそう	ライフラインチャートの作成		第18回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第4回	自己分析（1）	自分の特性を知る		第19回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第5回	自己分析（2）	周囲と比べて位置付ける		第20回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第6回	業界・企業研究（1）	会社・企業の業態研究		第21回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第7回	業界・企業研究（2）	自分に合った職業・自分の知らない職業		第22回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第8回	企業が求める人物像を探る	どんな人材が求められているのか		第23回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第9回	履歴書	正式な履歴書の書き方と記入のポイント		第24回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第10回	エントリー及びエントリーシート	エントリーシートの書き方と心得		第25回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第11回	筆記試験対策	筆記試験の種類と対策		第26回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第12回	ビジネスマナー	社会人として必要なマナー		第27回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第13回	企業面接	面接の種類と常識		第28回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第14回	インターンシップガイダンス	インターンシップの流れと受け入れ企業マッチング		第29回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
第15回	インターンシップ事前発表会	インターンシップ企業の研究と志望動機、実習で身につけたいこと		第30回	実習	各企業・事業所などにおいて実習				
評価方法及び評価基準	授業への参加度、議論への積極的参加、課題研究（レポート）の作成、プレゼンテーションから総合的に判断する。自らのキャリアデザインについて探求する姿勢が身に付いたか。									
課題等	インターンシップの実施と事前・事後レポートの提出									
事前事後学修	授業時に提示された情報などをもとに、自ら情報を収集し、考えを深める。（週90分以上の事後学修を行うこと）									
教材教科書参考書	なし。									
留意点	インターンシップは夏休みに行く。最低限4回以上参加。4回以下は単位取得不可。									

科目名	日本語学特講		科目コード	B53041	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	自由選択科目	選択	担当者名	今村 かほる			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代日本語を例として、ことば・方言と社会の関係について考える。具体的な問題を主題として、ことばの運用面のテーマを考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-6に関連している。</p>									
到達目標	<p>言語地理学や社会言語学の基礎知識を身につけるだけでなく、現代社会における言語の問題について扱う。各テーマに対し、具体的な例を用いて説明ができるようにする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	講義の進め方と評価について		講義の進め方および評価について理解する							
第2回	社会とことば		社会とことばとの関係性 一般言語学と応用言語学							
第3回	標準語・生活語・方言		標準語・共通語と方言の形成							
第4回	日本語方言の形成過程		方言の形成過程							
第5回	言語と方言の区画		言語区画とは何か、日本語方言の区画							
第6回	言語地理学		世界の言語地理学と日本の言語地理学							
第7回	共通語化		全国共通語・地方共通語・コイナー							
第8回	新方言・気づかない方言		新方言・ネオ方言・ネオダイアレクト 気づかない方言							
第9回	やさしい日本語		やさしい日本語 理論と実践 フィールドワーク実施							
第10回	言語接触		言語接触の問題 ピジン・クレオール 異文化理解							
第11回	言語行動		言語行動の問題 日本語と諸外国語 異文化間コミュニケーション							
第12回	日本語教育		言語政策と日本語教育 外国人労働者と日本語を含む							
第13回	言語・方言と医療・福祉		医療や福祉現場に於けるコミュニケーション上の問題(1)							
第14回	言語・方言と医療・福祉		医療や福祉現場に於けるコミュニケーション上の問題(2)							
第15回	言語政策		国語政策・国語問題・国語教育							
評価方法及び評価基準	講義時のコメント15%・提出物25%・レポート60% 評価は、論理性・具体性を重視する。									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	週3時間程度を目安に。									
教材教科書参考書	井上史雄・木部暢子編 『はじめて学ぶ方言学』 ミネルヴァ書房									
留意点	弘前市内を中心として、フィールドワークを実施する。									

科目名	日本文法特講		科目コード	B53042	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
区分	自由選択科目	選択	担当者名	今村 かほる				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          待遇表現研究 待遇表現としての敬語について、現代敬語の特徴と分類について知り、運用上の問題点とその対策について考える。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-6に関連している。</p>									
到達目標	<p>国語に関する世論調査と教科書教材を中心に、現代の敬語の問題点と、若者を中心とした敬語意識について知る。レジュメの作り方、発表の仕方などプレゼンテーションの能力を高めるとともに、学術的な根拠に基づく論理的思考を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	はじめに			講義の進め方・調べ学習とその準備および評価について理解する						
第2回	文献の講読「現代の敬語」			文献を入手し、講読する						
第3回	文献の講読「敬語の指針」			文献を入手し、講読する						
第4回	文献の講読「国語に関する世論調査」			文献を入手し、講読する						
第5回	文献の講読「学習指導要領」			文献を入手し、講読する						
第6回	パソコン実習			調べる・まとめる・発表するための道具として						
第7回	図書館演習			先行研究文献の入手とまとめ						
第8回	学習指導要領研究（1）			敬語教育史1						
第9回	学習指導要領研究（2）			敬語教育史2						
第10回	教科書研究（1）			教科書教材研究（光村図書）						
第11回	教科書研究（2）			教科書教材研究（教育出版）						
第12回	教科書研究（3）			教科書教材研究（東京書籍）						
第13回	教科書研究（4）			教科書教材研究（学校図書）						
第14回	教科書研究のまとめ			敬語に関する課題の検討						
第15回	総括			敬語研究と教育						
評価方法及び評価基準	発表40%・講義時のコメント20%・レポート40% 評価はwebデータを中心としたデータの取り扱いや分析・考察が、学術研究の手順に従ってできるかどうかを重視する。									
課題等	敬語に関する国の指針を手に入れ、講読する。それについて、教科書教材で確認する。									
事前事後学修	週に3時間程度の調べ学習と発表準備が必要。									
教材教科書参考書	適宜、プリントを配布する。また、国語教科書と学習指導要領等を入手し、使用する。その他、データの入手等でWEBを利用する。									
留意点	C i n i i を使用する。図書館を頻繁に使用し、アクティブラーニングを採用する。国語辞典、古語辞典、漢和辞典、漢語辞典等の工具書を使いこなすこと。									

科目名	古代文学特講		科目コード	B53043	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	自由選択科目	選択	担当者名	畠山 篤			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 景行記紀を精読し、倭建伝承の真相を追求する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-6に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 景行記紀の生成・構造・主題に迫れる。 2 諸説を整理できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス、記の皇統譜		播磨国風土記の隠び妻伝承をもつ両親に注目。							
第2回	兄殺し		王権を犯す国家叛逆罪に相当することに注目。							
第3回	熊襲建征伐(1)		新嘗祭を服属儀礼にしたことに注目。							
第4回	熊襲建征伐(2)		祭政一位を一人で体現していることに注目。							
第5回	出雲建征伐		禊ぎによる和平儀礼を転用することに注目。							
第6回	尾張・相模の平定		聖婚の延期と火責めされることに注目。							
第7回	弟橘比売の入水		水を管理する神女の奉仕に注目。							
第8回	足柄・筑波問答		海道目線による東征の完了の伝承に注目。						レポート提出(1)	
第9回	美夜受比売との聖婚		月経の禁忌とその解除による服属の成立に注目。							
第10回	伊吹山、大御葬歌		草薙の剣＝天照大御神の威力の顕示・天皇の葬儀の祭							
第11回	紀元年～二十年		思邦歌、御木の国など、天皇の事績に注目。							
第12回	二十五年～四十三年(1)		日本武皇子の西征に注目。							
第13回	二十五年～四十三年(2)		日本武皇子の東征に注目。							
第14回	五十一年～六十年		景行天皇の事績に戻っていることに注目。						レポート提出(2)	
第15回	まとめ		本演習を振り返る。							
評価方法及び評価基準	<p>授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。</p>									
課題等	<p>いつも作文を心掛ける。</p>									
事前事後学修	<p>予習・復習として最低3回は音読する。</p>									
教材教科書参考書	<p>随時プリントを配布する。</p>									
留意点	<p>レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。</p>									

科目名	近世文学特講		科目コード	B53045	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	自由選択科目	選択	担当者名	藁科 勝之			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          テーマ：江戸文化と文学と言語表現          江戸文化爛熟の化政期に生まれた作品を読解・鑑賞しつつ、作品とそれを産み出す社会的背景を考察する。          その具体的作品として、化政期の口語を反映する歌舞伎脚本『東海道四谷怪談』をとりあげ、その受容と影響の大きさ〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-6に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 四谷怪談とはどのような話か、その概要を説明できる。          2. 武士階級から庶民の生活、生き方、その心情を把握する。          3. 四谷怪談のはらむ現代的課題が理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	はじめに—近世文学概説		講義の進め方 近世とは—政治史と文学史							
第2回	上方と江戸		上方文学と江戸文学の流れについて					プリント配布 (以下毎回配布)		
第3回	歌舞伎について 鶴屋南北		江戸歌舞伎の発生—作者と作品							
第4回	『東海道四谷怪談』		鶴屋南北の四谷怪談創作							
第5回	四谷怪談と忠臣蔵		四谷怪談に取り入れられた忠臣蔵について							
第6回	忠臣蔵と近世文学		赤穂事件とその影響、及び忠臣蔵の発生							
第7回	四谷怪談—梗概、人物		四谷怪談のあらすじ、登場人物とその関係							
第8回	四谷怪談読解（1）		浅草境内の場（以下、テキストの該当の場を読解する。）					中間レポート 課題提示		
第9回	四谷怪談読解（2）		裏田甫の場							
第10回	四谷怪談読解（3）		雑司ヶ谷四谷町の場							
第11回	四谷怪談読解（4）		十万坪隠亡堀の場							
第12回	四谷怪談読解（5）		深川三角屋敷の場							
第13回	四谷怪談読解（6）		小塩田隠れ家の場							
第14回	四谷怪談読解（7）		夢の場 蛇山庵室の場					最終レポート提出の通知		
第15回	まとめ		授業の総括							
評価方法及び評価基準	<p>3分の2以上の出席を条件として、          (1) 中間レポート…必要な調査、データの収集を適切に行っているか、それらを用いての説明、主張が説得的であるかどうかを総合的に評価します（40%）。          (2) 最終レポート…各自が設定したテーマに即して、必要な先行文献調査を行なっているか、データの収集、処理は適切か、それらを踏まえての説明記述が論理的かどうかを総合的に評価します（60%）。          いずれもレポート評価には、ルーブリック評価を用います。</p>									
課題等	レポート等は、チェック、コメントを付して随時返却します。									
事前事後学修	予め関係資料等を配布するので、事前に読んでおくこと。読む際は必ず古語辞典、江戸語辞典などを検索すること。1週間に3時間程度の学修を必要とします。									
教材教科書参考書	教科書として、岩波文庫『東海道四谷怪談』を用います。参考書、参考文献等は、授業時に随時紹介することとします。									
留意点	国語辞典、古語辞典、漢和辞典、漢語辞典等の工具書を使いこなすこと。									

科目名	近現代文学特講		科目 コード	B53046	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	自由選択科目	選択	担当者名	顧 偉良			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>森鷗外のドイツ三部作のうち、『舞姫』『うたかたの記』などを読む。『舞姫』は、鷗外の精神史を考える上で重要な作品であり、日本近代文学においてマニエリスムの第一作として注目された作品である。文学的マニエリスムは、問題的人間の表現形式として意識された文学様式の一つである。『舞姫』などの作品との関連で鷗外の文学を考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-6に関連している。</p>									
到達 目標	鷗外の作品の理解。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	文学にけるマニエリスムについて		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第2回	「先生と私」(上) 8~14章		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第3回	『舞姫』について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第4回	『舞姫』について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第5回	『舞姫』について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第6回	『舞姫』について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第7回	『舞姫』について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第8回	「うたかたの記」について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第9回	「うたかたの記」について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第10回	「うたかたの記」について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第11回	「うたかたの記」について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第12回	「かのように」について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第13回	「かのように」について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第14回	「かのように」について		作品の発話行為、人物設定、及び表現法上の特色、または問題点について読解と分析。							
第15回	まとめ		鷗外の文学について							
評価 方法 及び 評価 基準	作品理解への取り組み30% レポート70%(毎回の講義でディスカッションの形式を行う。作品について感想を述べる)									
課題 等	毎回、授業に関する感想、作品の問題点を書かせて提出してもらう。									
事前事 後学修	作品各章の精読。									
教材 教科書 参考書	『阿部一族・舞姫』(9784101020044)、新潮文庫									
留意 点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席した場合、単位取得不可。									

科目名	民俗学特講		科目コード	B53050	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	自由選択科目	選択	担当者名	入江 英弥			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  〔キーワード： 民俗学・年中行事・祭礼 〕  日本の行事を取り上げて、地域性に注意しつつ、いかに伝えられてきたかを捉えていく。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-6に関連している。</p>									
到達目標	<p>行事を通して、日本の民俗的世界について説明することができる。  他地域の事例との比較により、地域性を把握する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		授業内容に関するガイダンスを行う。あわせて、小レポートについて説明する。年中行事に関するビデオ「神と語る四季」を見る。					講義形式		
第2回	日本の年中行事①		ビデオ「契約講が支える暮らしと祈り」を見た上で、講について考える。事前に「講」について、家族や友人などから聞いておくこと。							
第3回	日本の年中行事②		ビデオ「雪の中に歓びあり」を見た上で、雪国の正月行事について考える。事前に「正月行事」について、家族や友人などから聞いておくこと。							
第4回	日本の年中行事③		ビデオ「イワシの町の盆と正月」を見た上で、正月行事と盆行事の構成について考える。事前に盆行事について、家族や友人などから聞いておくこと。							
第5回	日本の年中行事④		ビデオ「山の子どもの歳時記」を見た上で、行事の担い手について考える。事前に子どもが主体となる行事について、家族や友人などから聞いておくこと。							
第6回	日本の祭礼①		ビデオ「岩木山神社のお山参詣」を見た上で、この祭礼の意味について考える。事前に、授業で扱う祭礼についての資料を読んでおくこと。							
第7回	日本の祭礼②		ビデオ「王祇祭り」を見た上で、この祭礼の意味について考える。事前に、授業で扱う祭礼についての資料を読んでおくこと。							
第8回	日本の祭礼③		ビデオ「御宝殿熊野神社の祭礼」を見た上で、この祭礼の構成について考える。事前に、授業で扱う祭礼についての資料を読んでおくこと。							
第9回	日本の祭礼④		ビデオ「京都の祇園祭り」を見た上で、この祭礼の意味について考える。事前に、授業で扱う祭礼についての資料を読んでおくこと。							
第10回	日本の祭礼⑤		ビデオ「田島の祇園祭り」を見た上で、この祭礼の意味について考える。事前に、授業で扱う祭礼についての資料を読んでおくこと。							
第11回	小レポートの作成		各自が行事に関して聞き書きする。事前に、扱う行事について家族や友人などから聞いておくこと。字数は1600から2000字とする。							
第12回	地域の行事に関しての発表①		レポートに基づいて発表する。小レポートは発表終了後、直ちに提出すること。					プレゼンテーション		
第13回	地域の行事に関しての発表②		レポートに基づいて発表する。小レポートは発表終了後、直ちに提出すること。					プレゼンテーション		
第14回	まとめ		授業内容に関して小テストによって確認する。まとめを行う。							
第15回	授業の振り返り		授業の振り返りを行う。小テストを返却する。							
評価方法及び評価基準	<p>小レポート30%、発表10%、小テスト60% 小レポートは、行事についてきちんと聞き書きできたかがポイントになる。小テストは、授業内容をまとめた上で、自分なりの考察ができたかどうかを問う。</p>									
課題等	<p>各自が行事に関して聞き書きする。事前に、扱う行事について家族や友人などから聞いておくこと。字数は1600から2000字とする。</p>									
事前事後学修	<p>授業で扱う行事に関して、事前に資料を見ておくこと。事前事後の学習は、毎回、3時間とする。</p>									
教材教科書参考書	<p>テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。</p>									
留意点	<p>毎回、授業に関するコメントを書いてもらい、相互の理解を深めたい。</p>									

科目名	民俗芸能学特講		科目コード	B53051	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	自由選択科目	選択	担当者名	入江 英弥			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  〔キーワード： 民俗芸能・日本文化〕  日本の代表的な民俗芸能を取り上げて、その特質を考える。  事例に沿いながら、その芸能がいかに伝承されてきたかについて明らかにする。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-6に関連している。</p>									
到達目標	日本の民俗芸能の展開を説明することができる。 民俗芸能を通して、日本の伝統文化の特質を述べることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	ガイダンス		授業内容に関するガイダンスを行う。あわせて、小レポートについて説明する。また、岩手県早池峰の生活に関するビデオを見る。					講義形式		
第2回	東北地方の芸能①		岩手の早池峰神楽に関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第3回	東北地方の芸能②		青森・下北地方の能舞に関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第4回	東北地方の芸能③		秋田の獅子舞に関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第5回	東北地方の芸能④		宮城の田植踊に関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第6回	中部地方の芸能①		長野の坂部冬祭りに関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第7回	中部地方の芸能②		愛知の花祭りに関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第8回	中部地方の芸能③		静岡の西浦田楽に関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第9回	中部地方の芸能④		愛知の田峯田楽に関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第10回	民謡		ハイヤ節の展開に関して、歴史的に説明するとともに、ビデオを見ながらその実態を把握する。事前に配布される資料を読んでおくこと。							
第11回	小レポートの作成		各自が一つの民俗芸能に関して聞き書きする。字数は1600～2000字とする。事前に、扱う芸能について調べておくこと。							
第12回	地域の芸能に関する発表①		レポートに基づいて発表を行う。小レポートは発表終了後、直ちに提出すること。					プレゼンテーション		
第13回	地域の芸能に関する発表②		レポートに基づいて発表を行う。小レポートは発表終了後、直ちに提出すること。					プレゼンテーション		
第14回	まとめ		授業内容を小テストによって確認する。まとめを行う。							
第15回	授業の振り返り		授業の振り返りを行う。							
評価方法及び評価基準	発表10%、小レポート30%、小テスト60% 小レポートでは、民俗芸能に関して正確に記述できたかで評価する。小テストは授業内容をまとめた上で、自分なりの考察ができたかがポイントになる。									
課題等	各自が獅子踊や囃子など民俗芸能に関して聞き書きし、それを提出する。自ら体験した芸能がよい。あるいは、扱う芸能について聞き書きしておくこと。字数は1600～2000字とする。A4の用紙に印字し、40字×30行で設定する。手書きの場合は400字詰め原稿用紙を使用のこと。									
事前事後学修	事前に配布する資料を読んでおくこと。事前事後の学習は、毎回、3時間とする。									
教材教科書参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。									
留意点	毎回、授業に関するコメントを書いてもらい、相互の理解を深めたい。									



科目名	海外研修 I (事前準備)		科目コード	B53067		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1~4年	開講 学期	前期
区分	専門教育科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス、楊 尚眞			授業 形態	演習	クラス分け		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>This course will prepare students for study abroad in English-speaking countries as a part of university study abroad programs.</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3又は5に関連し、カリキュラムポリシーの4-3又は5-5に関連している。</p>					<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本科目は本学と提携を結んでいる韓国姉妹大学（ソウル神学大学校、釜山外国語大学校、倍花女子大学校、釜山科学技術大学校）が提供している短期間の語学研修プログラムや交換留学プログラムに参加する本生が韓国語、韓国の歴史、文化、地理、観光等について学び、研修や留学を準備するための内容である。しかしそれらに参加しない学生でも韓国語習得や韓国に関する様々な領域を学ぶことができるように構想されている</p>					
到達目標	This course is a video-based preparation course that will prepare students for their experience abroad in the United States. Students will learn how to interact with English speakers, deal with cultural differences during study abroad, and will understand the differences between Western and Japanese cultures.					1. 韓国語の文字が読めるようにする。2. 簡単な韓国語会話ができるようになる。（韓国の文化内容を素材にして興味深く学習ができるように構成する。会話・語彙・聞き取り練習を通して、聴く力を身につける）3. 韓国に関する様々な領域（歴史、文化、芸術、地理、観光）を学習し、理解を深める。					
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	
第1回	Course Orientation and Program	Instructor explains course objectives and university study abroad programs.				オリエテーション	授業内と目的、評価方法について述べる			講義と課題解決型学修	
第2回	On the Plane	Students will learn about what to expect when traveling to their study abroad experience & practice			Create a dialogue	韓国語の基本的な発音 / 韓国の歴史①	基本母音、基本子音、濃音、合成母音			講義と課題解決型学修	
第3回	Airport Arrival Procedures	Students will learn what to expect when they arrive at the airport and practice going through customs and immigration in pairs.			Fill out customs forms	韓国語の基本的な発音 / 韓国の歴史②	バッチム、発音の変化、漢字語、固有語、外来語			講義と課題解決型学修	
第4回	Meeting the Host Family	Students will learn what to expect when they meet their homestay family and practice greetings in pairs.			Create a dialogue	あいさつの基本 / 韓国の歴史③	こんにちは、自己紹介、日常よく使う言葉			講義と課題解決型学修	
第5回	Sharing Japanese Culture	Students will consider how and what to share about Japanese culture. They will also discuss gifts for host families as a class.			Explain a Japanese gift	空港・機内での会話 / 韓国の文化①	空港で搭乗の会話、機内でよく使う会話、両替の会話、丁寧な表現			講義と課題解決型学修	
第6回	Taking the Bus	Students will learn how to use public transportation in America. Japanese Cultural Portfolio will be explained.			Cultural Portfolio Page	ホテルでの会話 / 韓国の文化②	チェックインの会話、サービス利用の会話、助詞、疑問詞			講義と課題解決型学修	
第7回	Orientation	Students will learn what to expect when they begin orientation at their study abroad university.			Cultural Portfolio Page	レストランでの会話 / 韓国の文化③	料理注文の会話、食事に使う言葉、勘定・清算の会話、数詞			講義と課題解決型学修	
第8回	Making Phone Calls	Students will practice using the phone in English and discuss communications methods used with friends in pairs and groups.			Cultural Portfolio Page	買い物での会話 / 韓国の芸術①	品物を選ぶ時の会話、お土産を買う時の会話、返品とクレームの会話			講義と課題解決型学修	
第9回	Seeking Medical Care	Students will learn how to get treatment for medical issues while studying abroad in America.			Cultural Portfolio Page	観光地での会話① / 韓国の芸術②	場所を尋ねる時の会話、バスや汽車に乗る時の会話			講義と課題解決型学修	
第10回	Giving Presentations	Students will discuss how to give presentations in study abroad classes in groups.			Cultural Portfolio Page	観光地での会話② / 韓国の地理①	韓流映画を楽しむ、喜怒哀楽の表現、動詞・形容詞の連体形			講義と課題解決型学修	
第11回	Shopping	Students will discuss foreign money and shopping in foreign stores; practicing in groups.			Cultural Portfolio Page	トラブルでの会話 / 韓国の地理②	病院での会話、警察での会話、道に迷った時の会話			講義と課題解決型学修	
第12回	Airport Departure Procedures	Students will learn what to expect when departing their study abroad and practice in groups.			Cultural Portfolio Page	韓国人の友人づくり / 韓国の観光①	相手の人柄を知る会話、電話での会話、お別れをする会話			講義と課題解決型学修	
第13回	Keeping in Touch	Students will discuss how to keep in touch with friends abroad and their host family after returning to Japan			Cultural Portfolio Page	関係を深める① / 韓国の観光②	愛情を伝える言葉、魅力を褒める言葉、丁寧な感謝を表す言葉			講義と課題解決型学修	
第14回	Cultural Portfolio Presentation	Students will present their cultural portfolios.			Cultural Presentation	関係を深める② / 韓国の観光①	お詫びをする言葉、許可を求める言葉、お断りの言葉			講義と課題解決型学修	
第15回	Review and Feedback	Students will review the lessons learned about how to prepare for study abroad.				まとめ					
評価方法及び評価基準	Classroom participation & Homework: 10%; Cultural book report (graded on English accuracy and content using a rubric): 15%; Cultural Presentation (graded on content & English language accuracy using a rubric): 25%; Japanese version of the Cultural Portfolio (graded on content & English language accuracy using a rubric): 50%.					1. 期末試験 (50%) 2. 授業への参加態度 (50%)					
課題等	Missed assignments should be submitted before the following class; the student is responsible for submitting missed assignments. Students will be asked to use their smartphones for class assignments every week.					毎回、宿題を出し、講義中に宿題を確認し、フィードバックする。					
事前事後学修	Pre-class reading materials and assignments should be completed and understood before coming to class. Expected preparation time: 30 mins. / day.					教科書の内容を予め精読し、講義後においては理解した事柄をノートに整理する。予習と復習のために1日1時間を費やす。					
教材教科書参考書	Go! Global-Preparing for ESL Courses Abroad, Lieb (2015), Sanshusha [ISBN: 978-4-384-33448-7]. The professor will also provide handouts and materials. Students must have access to a smartphone or notebook computer for classroom activities.					海外研修のための資料集を配布					
留意点	Students must attend scheduled classes and must submit work according to given requirements. Students should inform the professor PRIOR to absences whenever possible. Students are required to purchase new books-no sempai books allowed.					講義に必ず出席。講義内容に関する質問を奨励。オフィスアワー：水曜日10時 - 18時					